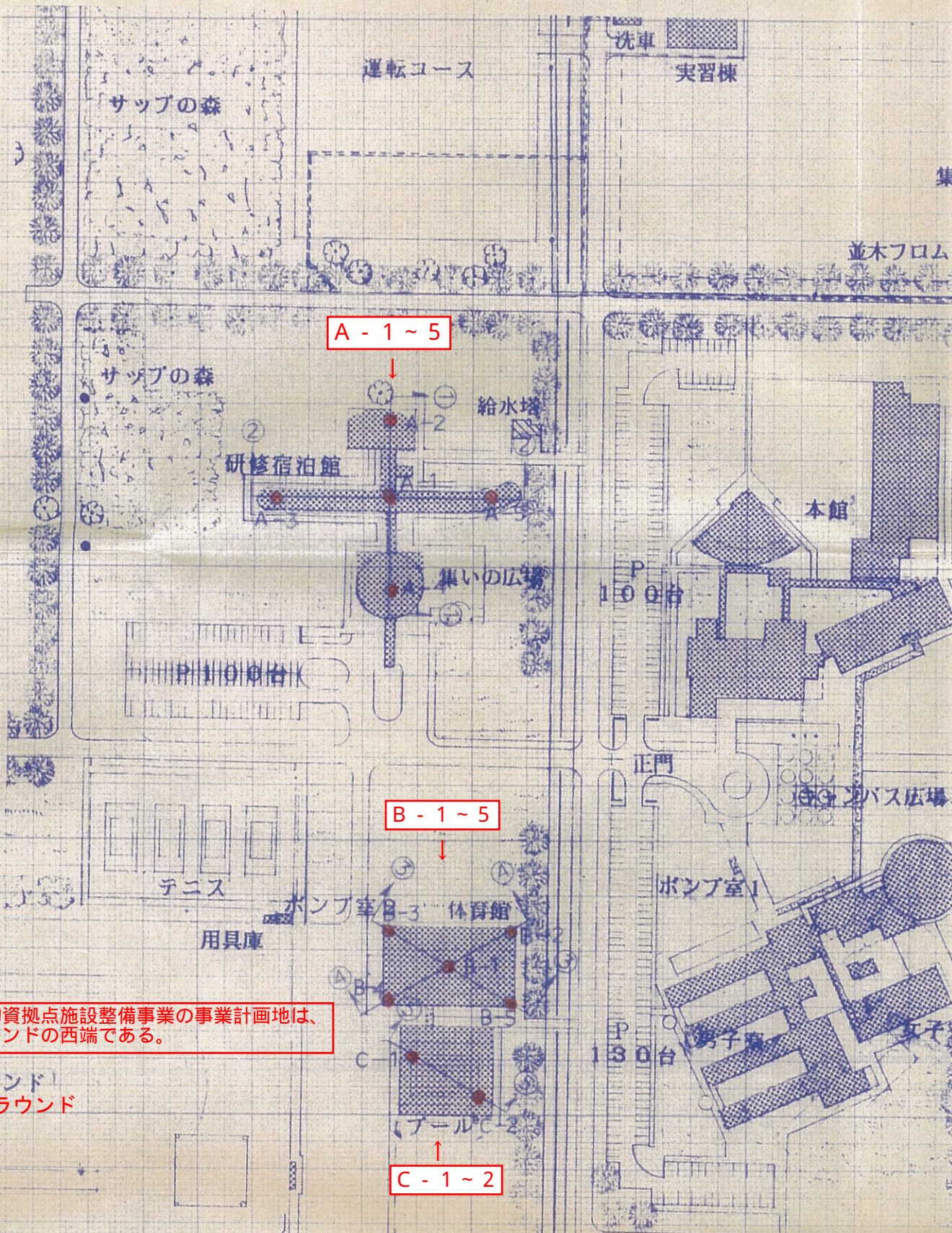


### ボーリング位置図



A - 1 ~ 5

B - 1 ~ 5

C - 1 ~ 2

災害支援物資拠点施設整備事業の事業計画地は、このグラウンドの西端である。

グラウンド



# ボーリング柱状図

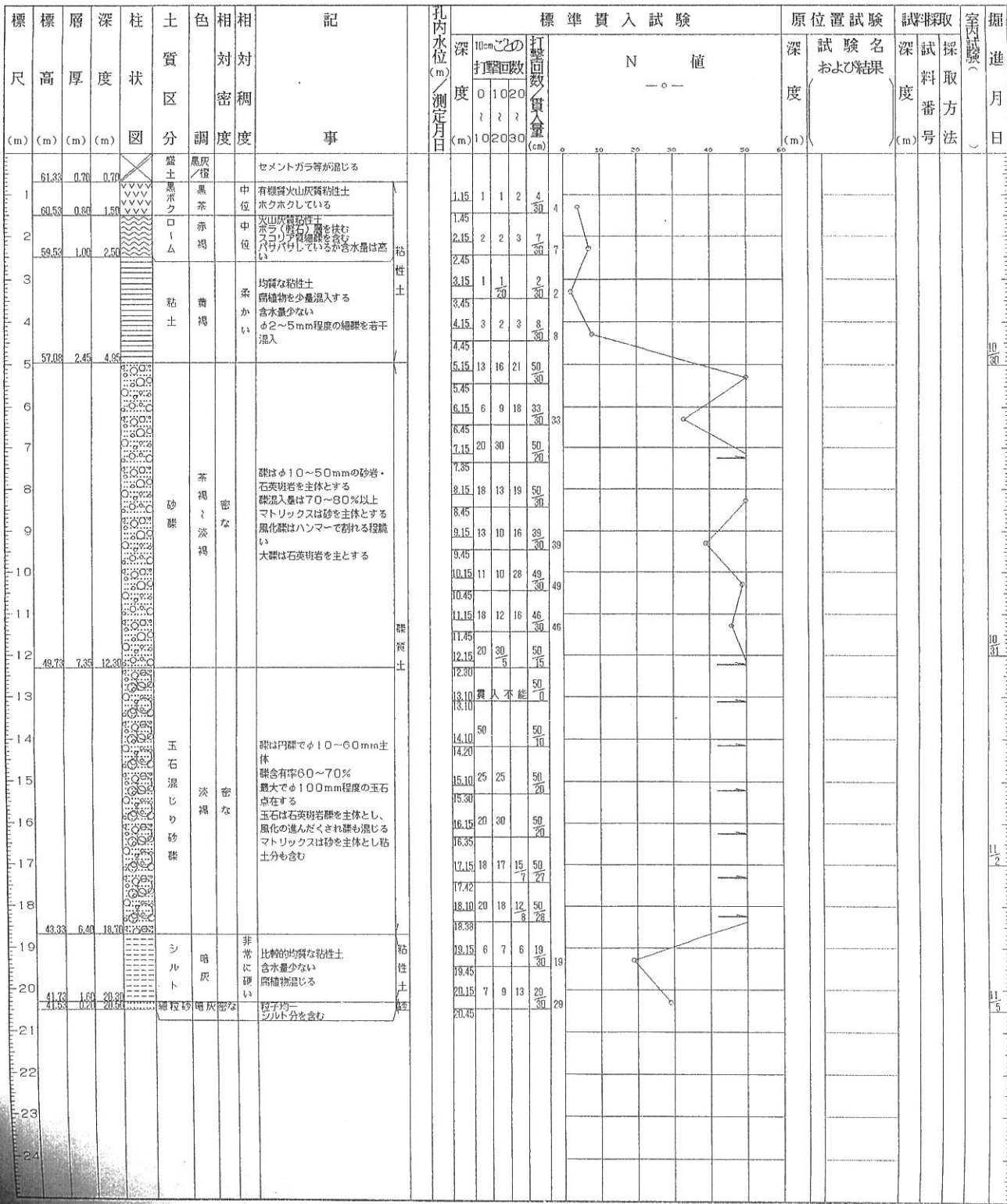
調査名 新農業大学校（仮称）建設工事に伴う地盤調査工事（2工区）

事業・工事名

ボーリングNo. 1

シートNo. 1

ボーリング名	No. A - 1 (宿泊施設)		調査位置	見沼郡 高鍋町 大字持田			北緯
発注機関	宮崎県営総課			調査期間	平成 4年10月30日 ~ 4年11月 5日		東経
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田吉秋		現場代理人	東 経
孔口標高	DL=62.03m	角	180°上 90°	方	北 270°西 90°東 180°南	地盤分配	ボーリング責任者
総掘進長	20.50m	度	下0°	向	北 西 東 南	使用機種	谷 加 義 二
						試錐機	コ ン プ ー リ ー
						エンジン	東 邦 製 D - 1 型
							ハンマー 落下用具
							ポンプ
							B G - 3 B 型



# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校(仮称)建設工事に伴う地盤調査工事(2工区)

ボーリングNo. 2

事業・工事名

シートNo. 2

ボーリング名	No. A-2 (宿泊施設)		調査位置	見沼郡 高鍋町 大字持田			北緯
発注機関	宮崎県営総課			調査期間	平成 4年11月12日~ 4年11月13日		東経
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田吉秋		現場代理人	松本幸平
孔口標高	DL=60.87m	角	180°上 90°	方	北 270°西 180°南	地盤勾配	水平
総掘進長	10.00m	度	90°下	向	北 270°西 180°南	使用機種	東邦製 D-1 型
						試験機	エンジン NS90
						ハンマー	落下用具
						ポンプ	コーンブリー
							BG-3B型

標尺 (m)	層高 (m)	深 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験				原位置試験	採取	室内試験	掘進月日
									深 (m)	10cmの打撃回数	N 値	貫入量 (cm)				
60.27	0.80	0.60	△	礫土	茶褐			砕石、砂質土を主体とする土砂	1.15	1	2	5				
59.17	1.10	1.70	▽	黒ボクローム	黒	中位		有機質火山灰質粘性土 赤ホヤ・ボラ混入する ホクホクしている	1.45	2	2	6				
58.27	0.80	2.60	〰	粘土	茶褐	中位		褐色ローム φ2mmのスクリア少量混入 雲母粒子も混入	2.15	2	2	6				
57.17	1.10	3.70	〰	粘土	褐	中位		均質な粘性土 含水量少ない 腐植物混入 φ2mm台の円礫少量混入	2.45	2	3	8				
			○	砂	灰褐	密な		礫はφ10~50mmの砂岩・ 頁岩の円礫を主体 礫の混入量は60~70% 最大でφ15cm程度の玉石点 在する GL-7.0m付近までは玉石 ・大礫が少ない 下層になるほど礫の混入量が増 す マトリックスは細~粗砂を主体 とし粘土分も混入	3.15	2	3	8				
			○	砂	灰褐	密な			3.45	4	13	38				
			○	砂	灰褐	密な			4.15	11	13	38				
			○	砂	灰褐	密な			4.45	13	21	50				
			○	砂	灰褐	密な			5.15	13	21	50				
			○	砂	灰褐	密な			5.45	15	10	20				
			○	砂	灰褐	密な			6.15	15	10	20				
			○	砂	灰褐	密な			6.45	14	18	50				
			○	砂	灰褐	密な			7.15	14	18	50				
			○	砂	灰褐	密な			7.45	15	16	50				
			○	砂	灰褐	密な			8.15	15	16	50				
			○	砂	灰褐	密な			8.42	27	23	50				
			○	砂	灰褐	密な			9.15	27	23	50				
			○	砂	灰褐	密な			9.32	26	24	50				
			○	砂	灰褐	密な			10.15	26	24	50				
			○	砂	灰褐	密な			10.34	26	24	50				







# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校（仮称）建設工事に伴う地盤調査工事（2工区）

ボーリングNo.	5
----------	---

事業・工事名

シートNo. 5

ボーリング名	№ A - 5 (宿泊施設)		調査位置	見沼郡 高鍋町 大字持田			北緯		
発注機関	宮崎県営建設課			調査期間	平成 4年11月17日～ 4年11月18日			東経	
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田吉秋		現場代理人	松本幸平 コア鑑定者 松本幸平		
ボーリング責任者	横山末広								
孔口標高	BL= 61.63m	角	180°上	方	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤分配	試錐機	東邦 D-1 型	
総掘進長	10.00m	度	90°下	向		使用機種	エンジン	NS90	
								ハンマー落下用具	コーンブーリー
								ポンプ	BG-3B型

標尺 (m)	層高 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記 事	標準貫入試験			原位置試験	試験採取	掘進月日	
									深 度 (m)	10cmの打撃回数	打撃同数貫入量 (cm)				深 度 (m)
60.78	0.00	0.90		盛土	黒			黒ボク、コンクリートガラ混じる	1.15	1	1	3			
59.98	0.80	1.70		黒ボク	暗褐色	茶かい		有機質火山灰質粘性土 ホクホクしている ホヤを若干混入する	1.45						
				ローム		茶褐色	中位	褐色ローム ボラ層を挟む φ2mm台の礫混じる	2.15	2	3	4			
				ローム		茶褐色	中位	褐色ローム ボラ層を挟む φ2mm台の礫混じる	2.45						
58.08	1.90	3.60		粘土	黄褐色	茶褐色	中位	均質な粘性土 含水量少なく低塑性 腐植物を少量混入する φ2mm台の礫若干混じる	3.15	1	1	2			
				粘土	黄褐色	茶褐色	中位	均質な粘性土 含水量少なく低塑性 腐植物を少量混入する φ2mm台の礫若干混じる	3.52						
56.88	1.20	4.80		砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	4.15	3	3	4			
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	4.45						
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	5.15	7	6	8			
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	5.45						
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	6.15	12	15	23			
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	6.43						
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	7.15	16	24	10			
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	7.39						
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	8.15	11	39				
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	8.35						
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	9.15	50	5	50			
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	9.20						
51.68	5.20	10.00		砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	10.15	6	7	11			
				砂	灰褐色	茶褐色	中位	φ10~50mmの砂岩・頁岩 ・班岩円礫が主体 ・礫混入量70~80% 最大でφ10cm前後の玉石点 在する GL-8.0~8.25m間は粗 粒砂を挟む GL-10.0m付近より礫が 小さくなる 礫φ10mm前後を主体 ・礫含有率は60% マトリックスは粗砂	10.45						

# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校（仮称）建設工事に伴う地盤調査工事（2工区）

ボーリングNo. 6

事業・工事名

シートNo. 6

ボーリング名	No. B-1 (体育館)		調査位置	新潟県 高田町 大字持田			北緯		
発注機関	宮崎県営建設課			調査期間	平成 4年10月30日～ 4年11月 6日			東経	
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田吉秋		現代場代理人	松本幸平		
孔口標高	RL=61.96m	角	180°上	方	北	地盤公配	使用機種	東邦製 D-1 型	
総掘進長	20.50m	度	90°下	向	北	約	エンジン	NS90	
								ハンマー落用	
								ポンプ	
								BG-3B 型	

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	標準貫入試験			原位置試験	試験採取	掘進月日
										深	10cmこの	打撃回数			
	61.56	0.40	0.40		埋土				アスファルト・砂石	0	10	20			
1	60.56	1.00	1.40		ローム	茶褐色	中位		火山灰質粘性土 ホクホクしている	1.15	1	2	5		
2	59.66	0.90	2.30		シルト質砂	淡褐色	中位		砂は細粒砂 含水量多い シルト分を多く含む	1.45	10	10	25		
3					粘土	緑灰色	中位		比較的均質な粘性土である 全体に含水多く、軟弱である 腐植物を少量混入する GL-3.0m付近までは砂・ 礫(φ2mm台)が若干混入 GL-6.1m付近よりφ5m m台の円礫混入 混含有率10~20%	2.15	10	10	5		
4					粘土	緑灰色	中位			3.15	1	2	4		
5					粘土	緑灰色	中位			3.45	1	1	3		
6					粘土	緑褐色	中位			4.15	1	1	3		
7	55.26	4.40	6.70		細粒砂	茶褐色	密な		粒子均一性高い シルト分若干含む	4.45	1	2	4		
8	54.71	0.55	7.25		砂					5.15	1	2	4		
9					砂					5.45	3	4	10		
10					砂					6.15	3	4	10		
11					砂					6.45	11	30	50		
12					砂					7.15	11	30	50		
13					砂					7.33	41	9	50		
14					砂					8.15	18	29	50		
15					砂					8.27	25	25	50		
16					砂					9.15	30	20	50		
17					砂					9.36	30	20	50		
18					砂					10.15	25	25	50		
19					砂					10.30	30	20	50		
20					砂					11.15	50	3	50		
21					砂					11.29	50	3	50		
22					砂					12.15	24	26	50		
23					砂					12.18	28	22	50		
24					砂					13.15	14.33	30	20	50	
25					砂					14.15	15.15	30	20	50	
26					砂					15.34	16.15	50	50		
27					砂					16.25	17.15	7	8	23	
28					砂					17.45	18.15	9	10	29	
29					砂					18.45	19.15	6	6	17	
30					砂					19.45	20.15	10	15	42	
31					砂					20.15	20.45	10	15	42	



# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校(仮称) 建設工事に伴う地盤調査工事(2工区)

ボーリングNo. 7

事業・工事名

シートNo. 7

ボーリング名	№B-2 (体育館)		調査位置	見沼郡 高鍋町 大字持田			北緯
発注機関	宮崎県営繕課			調査期間	平成 4年11月13日~ 4年11月16日		東経
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田 吉秋		現場代理人	松本 幸平
孔口標高	DL=62.09m	角	180° 上 90° 下	方	北 270° 西 180° 南	地盤勾配	水平
総掘進長	10.00m	度		向		使用機種	試錐機 エンジン
							錐研製OP-1型 ハンマー 落下用具 ポンプ
							コーンブーリー BG-3B型

標尺 (m)	層高 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記号	標準貫入試験			原位置試験	試験採取	掘進月日	
									深 (m)	10cmごとの打撃回数	N 値				
61.68	0.40	0.40	盛土	黒				砂混じりローム	1.15	2	3	7			
60.32	1.30	1.70	黒ボク	黒				有機質火山灰質粘性土 ホクホクしている 赤ホヤ混入する	1.45	2	3	7			
58.58	1.80	3.50	ローム	褐色				火山灰質粘性土 ボロボロしている GL-2.2~2.40m間ボラ層を挟む 下層は含水量多く低塑性	2.15	1	3	4	8		
55.43	3.15	6.65	シルト	淡褐色				比較的均質な粘性土である 団粒物混じる 細粒子シラスをレンズ状に挟む GL-6.0m付近よりφ2~3mmの円礫若干混じる	2.35	1	1	1	3		
52.08	3.35	10.00	砂礫	灰褐色				φ2~30mmの円礫主体 礫含有率60~70% クワシ混混する 最大でφ10cm程度の玉石点 在する マトリックスは砂・粘土を主体とする	3.15	1	1	1	3		
									4.15	4	6	6	16		
									4.45	2	4	4	10		
									5.15	2	3	4	9		
									5.45	2	3	4	9		
									6.15	2	3	4	9		
									6.45	20	30	6	50		
									7.10	50	3	50	3		
									8.05	50	7	50	7		
									8.08	50	7	50	7		
									9.00	14	18	18	8		
									9.07	14	18	18	8		
									10.05	14	18	18	8		
									10.33	14	18	18	8		





# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校（仮称）建設工事に伴う地盤調査工事（2工区）

ボーリングNo. 9

事業・工事名

シートNo. 9

ボーリング名	No. B-4 (体育館)		調査位置	見沼郡 高鍋町 大字持田			北緯		
発注機関	宮崎県営 宮崎県営 宮崎県営			調査期間	平成 4年11月 9日 ~ 4年11月10日			東経	
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田 吉秋		現場代理人	松本 幸平		
孔口標高	OL=62.23m	角	180°上 90°		方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°		地盤公配	水平
総掘進長	10.00m	度	90°		向	東 邦 製 D-1 型		ハンマー 落下用具	コーンブーリー
						エンジン		ポンプ	B G - 3 B 型

標尺 (m)	層厚 (m)	深 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 (m)	標準貫入試験				原位置試験 深 (m)	試験名 および結果	採取 深 (m)	採取 番号	採取 方法	掘進 月 日
										深 (m)	10cmごとの 打撃回数	打撃回数 の平均値	N 値						
61.95	0.30	0.30	表土	黒 ボク	黒 ボク	中位	黒 ボク	黒 ボク	1.15	1	1	2	15						
60.45	1.50	1.80	青褐 〜赤褐 〜乳白	ロ ム	青褐 〜赤褐 〜乳白	中位	ロ ム	粘 土	1.45	1	2	1	4						
59.05	1.35	3.15	粘 土	粘 土	粘 土	中位	粘 土	粘 土	2.15	1	2	1	4						
57.75	1.35	4.50	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	中位	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	2.45	2	3	1	6						
55.75	2.00	6.50	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	中位	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	3.15	2	3	1	6						
52.25	3.50	10.00	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	中位	砂 質 粘 土	砂 質 粘 土	3.45	3	3	3	9						
									4.15	3	3	3	9						
									4.45	2	3	2	7						
									5.15	2	2	2	6						
									5.45	2	2	2	6						
									6.15	2	2	2	6						
									6.45	14	17	19	50						
									7.15	20	30	30	50						
									7.44	50	3	50	3						
									8.15	50	3	50	3						
									8.34	50	3	50	3						
									8.13	50	3	50	3						
									10.15	14	19	17	50						
									10.41	14	19	17	50						



# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校（仮称）建設工事に伴う地盤調査工事（2工区）

ボーリングNo. 10

事業・工事名

シートNo. 10

ボーリング名	No. B-5 (体育館)		調査位置	見沼郡 高鍋町 大字持田			北緯		
発注機関	宮崎県営繕課			調査期間	平成 4年 11月 16日 ~ 年 月 日			東経	
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田吉秋		現場代理人	松本幸平		
孔口標高	DL# 62.01m	角 180° 上 90° 下	方 北 270° 西 180° 南	地盤公配	水平	使用機種	東邦製 D-1型		
総掘進長	10.00m	度	向	90°	90°	エンジン	NS90		
						落下用具	ハンマー ポンプ		
							コーンブリー		
							B G-3 B型		

標尺 (m)	層高 (m)	層厚 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	孔内水位 深 (m) 測定月日	標準貫入試験				原位置試験 深 (m)	試験名 および結果	採取 深 (m)	採取 番号	室内試験 方法	掘進 月日	
										10cmごとの 打撃回数	N 値	貫入量 (cm)	打撃回数/貫入量							
1		60.11	1.90	1.90	黒ボク	黒	柔らかい	有機質火山灰質粘性土 ホクホクしている 下層は赤水や混入する		1.15	1	2	2	5						
2					ローム	褐色	中位	褐色ローム GL-3.0m付近にボラ層を 挟む ガラス質粒子混入 含水量やや多		1.45	1	1	1	3						
3		58.31	1.80	3.70	シルト	黄褐色	中位	均質な粘性土である 含水量少なく低塑性 固結物混入		2.15	2	2	2	6						
4					シルト	黄褐色	中位	均質な粘性土である 含水量少なく低塑性 固結物混入		2.45	2	2	2	6						
5		56.66	1.65	5.35	砂質粘土	灰褐色	硬い	粘土と砂が混入量が等量 の2~5mmの円礫が存在する 下層になるほど礫が多くなる		3.15	2	2	2	6						
6					砂質粘土	灰褐色	硬い	粘土と砂が混入量が等量 の2~5mmの円礫が存在する 下層になるほど礫が多くなる		3.45	2	2	2	6						
7		54.71	1.95	7.30	砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		4.15	1	2	1	4						
8					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		4.45	1	2	1	4						
9					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		5.15	2	2	2	6						
10		52.01	2.70	10.00	砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		5.45	2	2	2	6						
11					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		6.15	3	3	4	10						
12					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		6.45	3	3	4	10						
13					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		7.15	5	10	23	38						
14					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		7.45	35	15	3	50						
					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		8.15	50	7	50	7						
					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		8.28	50	7	50	7						
					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		9.15	39	11	4	50						
					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		9.22	39	11	4	50						
					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		10.15	39	11	4	50						
					砂	褐色	密な	円礫はφ10~50mm砂岩・ 頁岩が主体 炭含有率60~70% マトリックスは砂・粘土を主体 とする 砂岩礫は、風化して脆いものが多い		10.29	39	11	4	50						

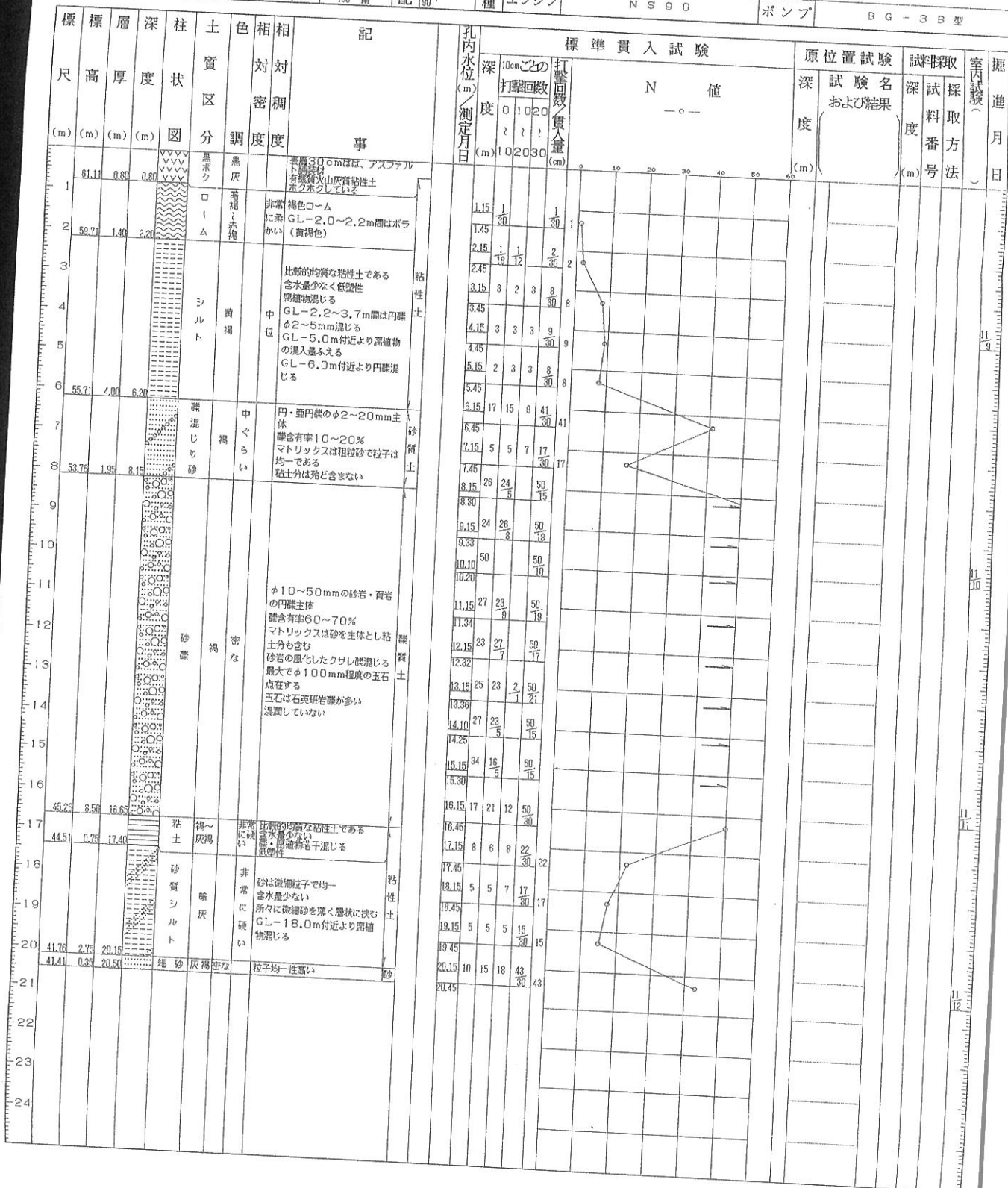
# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校（仮称）建設工事に伴う地盤調査工事（2工区）

事業・工事名

ボーリングNo. 11

ボーリング名	No. C-1 (プール)		調査位置	見沼部 森鍋町 大字持田			シートNo. 11
発注機関	宮崎県管轄課						北 緯
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田吉秋		調査期間	平成 4年11月 9日 ~ 4年11月12日
現場代理人	松本幸平		コ ン 定 者	松本幸平		東 経	
ボーリング責任者	横山末広						
試験機	東邦製 D-1 型		エンジン	NS9D		ハンマー	落用長
ポンプ	BG-3B 型						
コ ン プ ー リ ー							





# ボーリング柱状図

調査名 新農業大学校（仮称）建設工事に伴う地盤調査工事（2工区）

ボーリングNo. 1 2

事業・工事名

シートNo. 12

ボーリング名	No. C-2 (プール)		調査位置	見湯郡 富鍋町 大字持田			北緯
発注機関	宮崎県営建設課			調査期間	平成 4年11月10日～ 4年11月12日		東経
調査業者名	東洋開発工業株式会社 電話(0985-53-9060)		主任技師	園田吉秋		現場代理人	松本幸平
孔口標高	61.81m	角	180°上 90° 180°下	方	北 270°西 180°南 東	地盤勾配	コア 鑑定者 松本幸平
総掘進長	10.00m	度		向	北 270°西 180°南 東	使用機種	ボーリング責任者 谷村章二
						試験機	東邦製 D-1 型
						エンジン	NS90
						ハンマー 落下用具	コーンブーリー
						ポンプ	BG-3B型

標尺 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色	相対密度	相対稠度	記	標準貫入試験			原位置試験	試験採取	掘進月日			
									深	10cmの打撃回数	打撃回数/貫入量				N 値	深	試験名
1	60.11	1.70	1.70	VVVV	黒ボク	黒	中位	黒ボク主体で赤味や混入する	1.15	1	2	2	5	30			
2					赤褐	赤褐	中位	礫は亜円礫 φ2~3mm主体 礫含有率10~20%	1.45	1	1	1	2	30			
3					淡褐	淡褐	中位	腐植物混じる 亜円礫φ2~3mm若干混じる GL-6.0mより礫分多くなる	2.15	1	1	1	2	30			
4	57.81	2.30	4.00		シルト	淡褐	中位		3.15	2	2	3	7	30			
5					砂	灰褐	密		3.45	2	2	3	7	30			
6	55.21	2.60	6.60		砂	灰褐	密		4.15	2	2	3	7	30			
7					砂	灰褐	密		4.45	2	2	3	7	30			
8					砂	灰褐	密		5.15	3	3	3	9	30			
9					砂	灰褐	密		5.45	3	3	3	9	30			
10	51.61	3.40	10.00		砂	灰褐	密		6.15	4	4	4	13	30			
11					砂	灰褐	密		6.45	4	4	4	13	30			
12					砂	灰褐	密		7.15	5	5	5	17	30			
13					砂	灰褐	密		7.22	5	5	5	17	30			
14					砂	灰褐	密		8.15	7	8	17	32	30			
					砂	灰褐	密		8.45	7	8	17	32	30			
					砂	灰褐	密		9.10	25	25	25	50	20			
					砂	灰褐	密		9.30	25	25	25	50	20			
					砂	灰褐	密		10.10	21	29	29	50	20			
					砂	灰褐	密		10.30	21	29	29	50	20			